

令和3年第11回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和3年11月24日(水)

午後1時30分開会

開催日時	令和3年11月24日	開会 閉会	1時30分 2時19分	
場 所	第二庁舎8階 801会議室			
出席委員	教 育 長 教育長職務 代理者	大熊 雅士 福元 弘和	委 員 委 員 委 員	岡村理栄子 浅野 智彦 小山田佳代
欠席委員				
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 学務課長 指導室長 統括指導主事 指導主事 指導主事	大津 雅利 藤本 裕 鈴木 功 本木 直明 加藤 治紀 丸山 智史 西尾 崇 向井隆一郎	生涯学習課長 オリンピック・パラリンピック兼 スポーツ振興担当課長 図書館長 公民館長 庶務課庶務係長	関 次郎 内田 雄介 菊池 幸子 鈴木 遵矢 中島 憲彦
調 製				
傍聴者 人 数	5名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	代処第 1 5 号	小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理について
第 3	報 告 事 項	1 令和 2 年度小金井市立小・中学校の不登校児童・生徒数について
		2 その他
		3 今後の日程
第 4	代処第 1 6 号	職員の分限処分に関する代理処理について
第 5	議案第 3 2 号	職員の人事異動について

開会 午後1時30分

大熊教育長 ただいまから、令和3年度第11回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程の第1、会議録署名委員の指名である。

本日の会議録署名委員は、浅野委員と小山田委員に願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

大熊教育長 よろしく願います。

次に、日程の第2、代処第15号、小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理についてを議題とする。

提案理由の説明を願います。

藤本生涯 それでは提案理由について御説明する。

学習部長

本件については、小金井市公民館企画実行委員を解嘱する必要が生じたが、本件は教育委員会の議決すべき事項で、教育委員会を開催する時間的余裕がなかったことから、小金井市教育委員会教育長に対する事務委任規則第4条第1項の規定に基づく代理処理をしたことについて、同条第2項の規定によりその承認を求めるものである。

細部については担当から説明するので、よろしく御審議の上、御承認賜るようお願い申し上げます。

鈴木公民館長 それでは、代処第15号、小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理について御説明する。

小金井市公民館条例第21条で規定する公民館企画実行委員である長坂義明氏から令和3年11月1日付けで退任届が提出された。

本件は小金井市教育委員会が処理する事項であるが、特に緊急を要するため、教育委員会の会議を招集する時間的余裕がないことから、小金井市教育委員会教育長に対する事務委任規則第4条第1項の規定に基づく代理処理を行ったので、同条第2項の規定により、その承認を求めるものである。

よろしく御審議の上、御承認賜るようお願いします。

大熊教育長 事務局の説明が終わった。本件に関して質問、御意見はあるか。  
よろしいか。  
以上で質疑を終了する。  
それでは、お諮りする。代処第15号、小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理については、原案どおり承認することに御異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 御異議なしと認める。本件については、原案どおり承認することに決定した。  
次に、日程の第3、報告事項を議題とする。順次、担当から説明願う。  
はじめに、報告事項1、令和2年度小金井市立小・中学校不登校児童・生徒数について報告を願う。

向井指導主事 令和2年度小金井市立小・中学校の不登校等児童・生徒数について報告する。  
報告資料1を御覧いただきたい。令和3年度第6回定例会において、令和2年度小金井市小・中学校の不登校等児童・生徒数について報告したが、このたび、東京都と全国の数値が発表されたので、追記して御報告させていただく。  
全国の不登校・児童生徒数は8年連続で増加しており、過去最多となっている。小学校では前年比18.7%増加、中学校では前年比3.8%増加となり、特に小学校での増加傾向が見られる。東京都でも同様の増加傾向が見られている。  
要因は多様化、複雑化しているが、不登校児童・生徒の休養の必要性を明示した教育機会確保法が制定されたことにより、保護者の方々の意識の変化もあると考えられている。  
小金井市では前回でも御報告したとおり、小学校で85人、中学校で87人だった。中学校では大きな変化が認められないが、横ばい傾向と言える。小学校では増加の傾向が続いている。  
令和2年度は小学校、中学校ともに新型コロナウイルス感染症による休校等の影響により生活のリズムが崩れたり、不安を感じたり

する児童・生徒等に対応するため、各学校では家庭訪問や電話、オンラインを活用して不安を取り除いたり、子供や保護者の相談に乗ったりする対応を図ってきたところである。

指導室としては今後も、もくせい教室における個に応じた支援の充実、不登校児童・生徒個人指導カルテの活用、関係機関を招集した不登校対策会議を招集し、専門家から助言をいただくなどの取組を継続していく。

また、GIGAスクール構想により配付された1人1台のICT端末を活用した学習支援を充実させるとともに、不登校の未然防止や早期発見に向けた校内支援体制の強化を図っていく。

もくせい教室については、支援の充実を図るために東京学芸大学と連携し、9月より東京学芸大学内にもくせい教室を開設し、試行的な活動を開始した。大学内の環境を生かし、自然観察や運動などの活動を行っている。また学生ボランティアの方も参加し、子供たちと一緒に過ごしている。

このように学生との関わりや体験活動が充実したことで、子供たちが楽しく学ぶ様子を見ることができている。現在は、令和4年4月からの本格運営の開始に向けて準備を進めている。このような取組を通して不登校児童・生徒への支援を行っていく。

報告は以上である。

大熊教育長

ただいまの報告に関して、何か質問等はあるか。

福元教育長  
職務代理者

今、丁寧な説明をお聞きしたが、不登校の児童・生徒についてもうちよっと教えてほしい。出現率を見ても、中学校は全国や都と比べても、ぐっと下がってきた。それに比べて小学校は、急激に増えている。

先ほどの説明の中でも幾つか思い当たる理由を話していただいたが、他に原因として考えていらっしゃるものがあつたら教えていただきたい。

向井指導主事

要因は先ほど申したように1つに限られるものではないが、小金井市においても無気力や不安で不登校になっている児童が多く見られている。

また、低学年のうちから不登校になる子供たちが増え、長期化し

ていることも要因ではないかと考えている。

大熊教育長 中学校が減っているというのはどうしてか。何か捉えているか。

加藤指導室長 中学校については、簡単に言うと組織的な取組をできている部分があるかと思う。不登校加配というものもあるので、そういったことで教員の加配を受けて、実際に不登校に特化した取組を推進する役割を持った教員が配置されているといったようなこともあるので、そういったところで組織的に取り組んできたことが一定、功を奏しているという部分もあろうかと考えている。

大熊教育長 全国と1%違うから、かなりの割合だと思うけれども。

だから、今話していただいたことも要因だと思うが、よさはよさとしてこれからも継続して対応できるように、ある程度細かく分析していく必要があるかと思うので、今後も継続して小金井の不登校対策のよさをやはり語りつなげていくことも重要だと思うので、分析をこれからもよろしく願います。

ほかにあるか。

福元教育長 職務代理者 もう1つ願います。よくこの不登校の問題が出てきたときに、保健室登校というのが一緒になって話題になるが、小金井市の保健室登校の実情を分かっている範囲で教えてほしい。

向井指導主事 現状、保健室登校をしている児童・生徒はいないわけではない。ゼロではなくて、ただ、各校から問題になっているとか、増えている、対応が困難だという情報は上がってきていないので、そこまで多くはないと認識している。

大熊教育長 各学校で養護教諭が対応することが大変であるとか、そういう情報は今のところ上がっていないということによろしいか。

ゼロではないと思うけれども、継続していればやはり問題点として上がってくると思うが、何らかの形で保健室登校等の子供たちが保健室に来て、教室に戻るとかいうことができていることで、長い間継続していないことが、1つは学校から上がってきていないことにつながるのではないかなと思うので、今後はそういうこともない

ように、いち早く対応できるようにアンテナを高くしていただきたいと思うが、そういう情報はどこか捉える場所があるのだろうか。

向井指導主事　　まずは、学校から直接連絡等が来る場がある。また、生活指導主任研修会などでは各校の不登校の状況等も情報交換を行っているので、そういった中で話が上がってくることもあると思われる。そういった研修の場なども活用していきたいと思っている。

大熊教育長　　では、今度一度、生活指導主任研修会等で保健室登校等の実態を把握していただいて報告いただけるか。

向井指導主事　　承知した。

大熊教育長　　ということでよろしいか。

福元教育長　　はい。  
職務代理者

大熊教育長　　今のところ表立ってそういう形は課題にはなっていないけれども、積極的に生活指導主任会を通して状況の把握に努めたいと思う。  
ほかにないか。

岡村委員　　コロナによる自主休校にまで細かく御指導いただいてとても助かると思うが、この統計の不登校の中にはコロナによる自主休校、もちろん濃厚接触者とかは把握されていないと思うけれども、自主休校の方はこの中の不登校ではないわけか。

向井指導主事　　こちらの令和2年度については、コロナを理由とする長期欠席は別で取っているので、この中には含まれていない。

岡村委員　　それは大勢ではないか。

向井指導主事　　令和2年度でいうと、そんなに多い数ではない。

岡村委員　　大分ほかの区域ではそういうことがよくあると聞くので、それは

それぐらいで御指導いただいでよかったと思う。

大熊教育長        そういう子供に対しての対応は何かしていたか。

向井指導主事     今年度については、例えばコロナで長期間欠席をした児童に対しては各校で課題等を配付していただいたり、また、先ほどもお話しした1人1台の端末を使って授業の様子であるとかいったものを配信していただくようなことをお願いした。

岡村委員         小学生で何となく不登校が増えたのも社会的な不安があって、お父さんもお母さんもいるんだったらおうちにいたいなと思ってしまふのかなという気もするけれども、それを指導していくのはすごく大変だと思うが、皆さんよくやっていただいて、これからもよろしく願います。

大熊教育長        ほかにあるか。

浅野委員         ありがとう。浅野である。

2点質問と、2点感想のようなことを申し上げたいが、1点目は、不登校に関して原理原則に立ち返ってみると、重要なのはどこにいても、どういう状況でも学習権が保障されていること、学習環境がきちんと整えられていることだと思う。それが学校に来られる子供たちにとっても、来られない子供たちにとっても同じように保障されるべきだと思う。

その上で小金井市にとって大切なのは、もくせい教室がどのくらい機能しているかということで、質問は、ここで不登校に数えられている子供たちはどれくらいもくせい教室にアクセスできているかということを知りたいのが1点である。

2つ目が、この数字は小金井市のいわゆるカルテをベースにして出てきているかと思うけれども、非常にきめ細かくデータをとっていただいているので恐らく把握されているのではないかと思って伺うが、不登校の出現の時期である。月別、月次別で見たときに何月が多いといったようなことは把握されて、また指導に活用されているのかということを知りたいのが2つ目の質問である。

残り2つはコメントで、3つ目、中学校の不登校はここ数年、中

1 ギャップということがずっと言われてきたわけけれども、実際には、公表データを見ると中2で新規発現する不登校者が結構いて、中1ギャップだけに目を奪われるのではなく、中2にも組織立った対応が恐らく必要になってくるだろうと思うので、先ほど不登校加配の話があって既にやられているだろうと思うけれども、その辺をさらに今後もきちんとやっていけたらいいなと思う。それが3点目である。

4点目だが、文科省のいわゆる問題行動調査の個票データの分析結果などを見ると、不登校の出現と関係する変数として学校規模とか学年サイズとかいうことも言われるが、実際にはそれはあまり強く利いていなくて、学級サイズが比較的よく利いているんじゃないかという示唆がなされている。

今後35人学級化が進んでいくというのは、その点からいうと非常に大きなチャンスであり、このチャンスを生かして不登校児童・生徒への対応をますますよいものへとしていけたらいいなと思う。これが4点目である。

最初の2つは質問なので、よろしく願います。

向井指導主事      まず、もくせい教室に通っている児童・生徒の割合だが、令和2年度に関しては、およそ4割の児童・生徒が通室しているとか、体験や見学を行ったなど、何らかの形でもくせい教室と関わっている状況になる。

今年度は現在進行形であるが、ほぼ同じ割合かと思われる。

加藤指導室長      指導室長である。次に出現の時期である。個別の案件なので、それぞればらつきがあると思うが、学校を訪問して不登校の状況についてヒアリングをしていく中では、やはり2学期あたりから出てくることが多いというのは、中学校からは聞くところである。

ただ、小学校の場合は先ほど指導主事からもお伝えさせていただいたとおり、小学校1年生等で出現することも今、見られている。そういったお子様については、4月当初からやはりつまずいてしまうお子さんもいるといったようなことが一定、見られると把握している。

次に中学校2年生の出現についてであるが、やはりこれもヒアリングをしている中での状況ということであるが、中学校の不登校の

要因で小学校と違う部分としては、やはり学習の悩みが要因として上がってくる割合は高いということになっている。

この辺りで中学校2年生がやはり少しずつ進学のことが見えてくる段階になってきて、そこで悩み始めるといったことが一因に含まれていると。学校現場からもそういったような声を聞くことは多くあるかと思っている。

最後に学級のサイズについても御指摘いただいた。こちらはやはり個別、1人1人のことについて要因等も様々である。そういったことを考えると、ちょっとした変化に気づいて対応することが非常に重要になってくるかと思うので、もちろん人数が少なれば変化に気づきやすいという点もあり得ることだと思っているので、そういった面でサポートを充実していけるといいのかなと考えている。

浅野委員            ありがとう。

大熊教育長        よろしいか。ほかにあるか。

小山田委員        小山田である。ちょっと話が戻るのだが、先ほど岡村委員からコロナが原因での不登校というか、長期欠席者が数名だがいるという話があったが、不登校にはカウントされていなくて、コロナが原因ではない長期欠席者がいらっしゃるのか、もしいらっしゃるのとすると、どのぐらいの人数の方がいらっしゃるか、分かれば教えてほしい。

向井指導主事     長期欠席の状況として確認している不登校以外の原因としては、病気と経済的なものがある。

小金井市の状況としては、何らかの病気で長期欠席している児童・生徒は小・中学校ともに数名程度と令和2年度についてはなっている。経済的な理由については、小金井市ではゼロとなっている。

小山田委員        ありがとう。

大熊教育長        この数字は全国的に見ると非常に少ないと思うが、その他はどのぐらいいるか。

向井指導主事      その他は小学校で10名程度いる。中学校はゼロである。

大熊教育長      その他というのがもう1つあって、その中で小学校は10名程度いて、中学校はゼロということなので、ほぼこの数が全部の長期欠席児童の数と捉えてもいいのではないかと思う。

よろしいだろうか。

今話を聞いていたところによると、小学校の不登校が増えている原因に低学年の子供たちが増えているというのが1つあった。

それから中学校はしっかりと対応して、その他とか、病気とかいうことではなくて、不登校としてカウントして適切な対応ができていると思うけれども、問題行動調査で中学校の不登校になった原因の中に不規則な生活をしているというのが今まではなかったのだが、ここ数年増えている。

つまり何かというと、ゲームをやり過ぎて学校に来られない。学習面もあるけれども、いわゆるきちっとした生活ができないことによって不登校になっている子供も、ある一定以上いるのではないかと思うが、ちょっと難しいかもしれないけれども、低学年から増えているということについての対応策、それから小学生も同じだと思うが、不規則な生活をするによっての不登校対策に関しては今後どうするのか、ちょっと考えがあったら教えてもらえないか。

加藤指導室長      小学校低学年の対応という面では、やはり幼稚園、保育園との連携が1つあるかと思う。現状でも入学前に幼稚園や保育園から情報提供を得たりしているところではあるけれども、そういったところを充実していくようなことが、入学時にトラブルになってしまうとか、つまづいてしまうということ避けられる部分ではないかと考えるところが1つある。

それから、中学生の生活リズムという点ではなかなか難しい面もあるかとは思いますが、やはり今言われていることは主体的に学習をしていくこともあるし、自分で計画を立ててというところも重要視されているので、そういった自分の学習も含めた生活のリズム等の計画をしっかりと、よりよいものにしていくといったような全体的な考え方を中学校で指導していくことも1つ考えられるのかなと思っている。

大熊教育長

実は何でそんな質問をしたかという、先日、不登校の会の親の会に出席したときに、子供とのトラブルは最近なくなった。何でなくなったかという、子供がゲームをやっても文句を言わなくなったからだ。このままでは、実はでも不安であると。どうしたほうがいいのかという相談を受けた。その内容と問行調査の不規則な生活をしているということと合致するわけである。

そうすると、これは子供の対応をしてもこの不登校は解消されないということである。つまり不登校対策をこれから本格的に実施するとなると、その保護者も含めてしっかりとしたサポートをしなければ、いわゆる家庭での生活の仕方を改善するというのは、とても難しいことだと思う。

それまでは親御さんも戦っていたわけである。早く寝なさいとか、ゲームはいいかげんにやめなさいとか言っていたが、そういうことがなかなか通用しなくて子供が暴れてしまったりすると、そういうことを避けるためには意見を言わないようにするという悪循環が起きていると思う。

そういうことに対する対応策にしっかり焦点を当てて対応していく必要があると思うが、委員の皆さんはどう考えるか。

浅野委員。突然振ってすまない。

浅野委員

おっしゃることももつともだと私も思うけれども、摩擦がある程度ないと人間関係は深まらないところがあって、滑らかな人間関係だけになってしまうと、表面上はうまく回るわけけれども、実際には例えばアドバイスが深いところまで届かないといったようなことが起こりがちになってくる。

だから、先ほどの保護者の方と子供との間にいさかいがなくなるというのは、ある面ではもちろんいいことだと思うけれども、別の面から見ると、いさかいを通して相互理解が深まるとか、あるいは親側から子供に別の見方を開示するとか、逆に子供の見方が親の目を開かせるといった機会が少なくなっていることもあり得ると思う。

ただ、だからといって摩擦を増やすような指導をするのがいいかという、それはそうとも言えないわけなので、対応の仕方がなかなか難しいと思う。

岡村委員

東京都医師会では長年、早寝早起き朝ごはんというのをずっと主張していたが、最近あまり言われなくなったのだが、この単純な早寝早起き朝ごはん、小学校、中学校できちんと体をつくるという教育をもう一度考えて、お母さん方にも広めていきたい。

それで、学校保健というものをみんなで一生懸命考えたときに、学校の中で子供たちが安全で健康であればいいという考え方ではなくて、学校にいる間に子供たちに安全で健康な体はどうやっているかを教えなくてはいけないというのを再認識されているのに、この頃忘れてしまったなと思って、それが分かれば、逆に食育のときもそうなのだが、子供たちに教えたら、いつの間にかお母さん方も理解していたというふうになる。もうちょっと学校で健康とか睡眠時間をいろいろ教えていったほうがいいのか、そしてそれがお母さんに伝わるかなという気がして、やっぱり医者もちょっと力不足で、この頃力を抜いているなと思った。

小学校、中学校の頃にしっかり体をつくるので、やっぱり単純な早寝早起き朝ごはんを勧めていきたいと思った。

大熊教育長

なるほど。今、話を聞いていて、そういうことができていない、駄目だという感じで親御さんを責め立てると、親御さんは今いっぱいいいっぱいなので、なかなかそういうことができていない、私は子育てがうまくできないんだみたいな形で親御さんの自己肯定感が下がってしまうことになる。

本来、子育ては家族単体とするものではなく、地域が一体となって子育てをすべきであると思はうけれども、不登校対策を本当にやっていくときに、家族単体で、その人の親の育て方が問題であるとか何とかということ言うのではなくて、地域の子育て支援みたいなことがやっぱり重要ではないかと思はうけれども、その点、小山田委員はどうだろうか、得意なところで。

小山田委員

今、教育長がおっしゃったとおりだと思うが、乳幼児とかの子育てでもやはり孤立させない育児と言われていて、小学校、中学校に入ってもその延長と考えれば、家族だけを孤立させるというのはやはりそこに追い込むことになるので、何か地域だったり、また学校ではない第3の場所というか、第3の居場所でその親子を見守ったり、サポートしたり、アドバイスできたりみたいな機関だったり、グル

ープだったり、そういったことがもっと地域に広がっていけばいいのかなとは思う。

あと小学校までは、親同士も割と保護者会とかで会って話をしたりという場があるけれども、小学校高学年、中学校ぐらいになると保護者同士もそんなにPTAとかで会っても話さないようになって、なかなか親同士も話す機会がなくなってくるというのは確かで、そういったところを意図的につくといいことでも、私が言うのであれば、コミュニティ・スクールとか地域学校協働活動のような仕組みをつくって、いろんな人が関われるような仕組みというか、そういったつながりをつくっていったらいいのではないかと思う。

大熊教育長            そういう地域一体となった不登校対策というか、不登校ということではなくて、その子らしさがさらに伸びるためには様々な施策をこれからも継続的にやっていく必要があると思う。

この点で、今回のこのことについてはよろしいか。何か言い忘れたことはないか。よろしいか。

それでは次に、報告事項の2、その他である。学校教育部から報告があれば発言願う。

大津学校  
教育部長            特にない。

大熊教育長            次に、生涯学習部から報告があれば発言願う。

藤本生涯  
学習部長            オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当より1件報告をさせていただきます。

内田オリンピ  
ック・パラリ  
ンピック兼ス  
ポーツ振興担  
当課長            10月31日、小金井宮地楽器ホールにおいて、小金井市東京2020大会報告会を実施したので、その点について御報告させていただきます。

報告会では、大会に向けて実施してきた数々の機運醸成イベント、オリンピック聖火のトーチキス、自転車競技（ロード）、パラリンピック聖火の採火式の模様とかボランティアの感想、聖火ランナーや大会に出場された選手によるメッセージ、質問コーナー、観覧者にも御登壇いただいていたのデモンストレーションを行った。

小金井市として大会を総括するイベントだったが、参加された方からは、とても楽しかった、一生の宝物になったとの感想もいただき、大会そのものと併せてよい思い出になるとともに、改めてスポーツの楽しさを実感したひとときとなった。

現在、権利関係の調整のため時間をいただいているけれども、当日の様態に関しては後日、市ホームページに動画をアップさせていただく予定である。

また、この1週間後に当たるが、11月6日、フェンシングの全日本選手権個人において、報告会当日デモンストレーションを御披露いただいた男子サーブルの吉田健人選手が見事に優勝されたことも報告させていただく。市として引き続き応援をしていきたいと思っている。

報告は以上である。

大熊教育長

ただいまの報告に関して、何か質問等はあるか。

私も出席させていただいたけれども、とても有意義な会になったのではないかと考えている。実際にオリンピックに出た人が身近にいるということだけで、何かわくわくドキドキさせていただいた。

フェンシングはすごかった。それから車椅子の操作に関しても物すごく、びっくりした。本当にいいイベントになったのではないかと思う。

よろしければ、次に進みたいと思うが、次に報告事項の3、今後の日程について事務局より報告を願う。

中島庶務係長

それでは、教育委員会の今後の日程について御報告する。

市町村教育委員会オンライン協議会が、資料のとおり残り2日程で開催される。希望者は指定日に御参加いただきたい。

続いて、第1回教育委員会定例会が来年1月11日火曜日に、また第2回定例会が2月8日火曜日に、第3回定例会が3月29日火曜日に、いずれも午後1時30分から第二庁舎8階801会議室で開催する。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更する可能性がある。その際、市民の皆さんにはホームページ等で御案内させていただく。

今後の日程は以上となる。

大熊教育長

ただいまの報告に関して何か質問等はあるか。

付け足しをさせていただきたいのだが、本日定例会後、東京学芸大学内のもくせい教室に訪問して、今の様子を見に行ってきたと思うが、よろしいだろうか。

以上で、報告事項を終了する。

次に、日程の第4、代処第16号を議題とするところだが、本案は人事に関する事件で、小金井市教育委員会会議規則第10条第1項の規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、御異議はないだろうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため休憩する。傍聴人の方におかれては、席を外していただくことになるので、どうぞよろしく願います。

休憩 午後2時11分

再開 午後2時18分

大熊教育長

再開する。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって令和3年第11回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後2時19分